

講師：片平 敦 氏

講演：いのちを守る「情報」と「こころ」

～あなたとあなたの大切な人を災害から守るために～

「最近の気象災害を振り返る」

近年は非常に大きな気象災害が多く、2017年7月には、福岡県の朝倉市で大きな水害のあった九州北部豪雨がありました。2017年の台風21号では堺市の浅香駅が冠水し、翌年2018年7月に平成30年7月豪雨、いわゆる西日本豪雨がありました。9月には台風21号で関西は大変な被害が発生しました。台風の右側がより危険なのですが、そういう意味で台風21号は大阪にとって最悪のコースを辿りました。2019年9月には台風15号が千葉県に大停電をもたらし、台風19号では関東・甲信・東北地方の大河川が多くの地域で越水が起きました。

そして今年は…。何処に起きてもおかしくありませんので、皆さんにまず知ってほしいことは、災害は突然あなたのすぐそばから襲いかかる。そして、これを自分のことだと思ってほしいのです。

台風の進路予測は近づくほど精度が上がり、1日前にはほぼ間違いないという状況になります。会社レベルでは台風が来た場合には職場を休みにするとか、電車を運休にするとか、個人レベルではこのタイミングでこうしよう、ということ予め決めておくことは非常に大切なことなのです。

皆さん、覚えてください。『先手を打ったら損はせんて』。川が溢れる直前のタイミングで暴風雨が吹いていたらもう逃げられないのです。情報を早目に受け取って、いかに先手を打って行動するか。災害が起こる前に先手を打つというのが非常に大事となり、その際の鉄則として、「彼を知り己を知れば百戦殆(あやう)からず」という孫子の教えがあります。彼とは気象のことであり、己とは自らの住んでいる場所の地形や地域に内在するリスク等です。この2つを理解していれば戦いに勝つ、即ち、命を守ることが出来るというわけです。

「彼を知る」

気象を知るためには、まず情報の意味を知る必要があります。避難情報（避難勧告、避難指示）などは、逃げてくださいというふうに市町村が出すもので、大雨警報や土砂災害警戒情報などは、地域別の気象の状況をお知らせするために気象台が出す情報です。

最近、その避難情報や防災気象情報の警戒レベルが5段階に整理されました。レベル5が一番危なく、レベル1から順に危険度が上がっていきます。レベル5で逃げたらいいの？と思われるかもしれませんが、レベル5では、既に災害が起きています。手遅れです。特に皆さんに覚えてほしいのは、レベル4と3。レベル4は、その地区は災害が差し迫っているので安全な場所に退避してくださいというレベルで、レベル3は、まだ時間に余裕はあるがこのままの状況でいくとレベル4なり5なり、避難に時間がかかる人は逃げてくださいというレベルです。まとめると、レベル3や4が出たら、皆さんのご家庭の地域事情に合わせ、声を掛け合って安全な場所へ避難してください。レベル5を待ってはいけません。

防災気象情報のうち、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報、氾濫危険情報の3つについても是非覚えてください。土砂災害警戒情報と氾濫危険情報の発信はレベル4です。土砂災害警戒

情報は土砂災害の危険性が高まっている時に、氾濫危険情報は〇〇川が氾濫する危険性が差し迫っている時に発信され、記録的短時間大雨情報は、実はまだレベルが決まっていますが、ものすごい雨が降り、瞬く間に低い場所が水没するような雨の降り方の時に発信されます。これら3つの情報が出たら特に危ないと思ってください。もう災害が発生しているかもしれないのです。

「己を知る」

ただ、この3つの情報(土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報、氾濫危険情報)が出たとしても、必ずしも全員逃げる必要はありません。自宅がマンションの30階にあたり、家の後ろに崖もなければ、そのような人は家にいるのが一番安全です。ここが安全だと思ったら、無理に逃げずにそこに居たいのです。ただし、マンションの30階に居て電気が消えたり、家の前が1週間経っても冠水状態であれば、安全ではなくなります。生活できる状態が確保できてこそようやく安全なのです。

崖や斜面等の近くにお住まいの方は、この情報が出たら早目に避難をしてください。そのときにハザードマップを活用してください。ハザードマップがご自宅にないという方がいたら、是非地元の自治体に取りに行ってください。どの地区で川が越水したら水が来るか、津波が来たらどこまで浸水するか等が書かれています。インターネットでも見る事が出来ますが、やはり紙がいいですね。鉛筆やペンで、小さいお子さんと一緒に話をしながら家族で確認することがすごく大切です。「ここが家やね」「避難する場所、どこかな」「この中学校に逃げなあかんね」ということを是非ご家族で話し合ってください。

「災害からいのちを守るころ」

いわゆる西日本豪雨の後に、国の防災のワーキンググループが国民に向けこのような発表をしました。「気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。(中略) 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。(中略) 行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします」と。我々もテレビを通じて全力でサポートします。しかし、あくまでサポートであり、最後は自分なのです。

自分の地域が危険だという情報を受け取ったら、いつもと違う何かを感じたら、それを見逃さず、周りに拡散していただきたいと思います。残念ながら、災害発生前に避難をする人はごく僅かです。情報の意味を分かっている人も避難する人は少なく、自分だけは大丈夫、正常なはずだという思い込みの正常性バイアスが働きます。正常性バイアスを打ち破れるか否かは、信頼する身近な誰かの最後の後押しが必要となります。災害時、直接玄関に来た消防団の人や家族による「お母さん、逃げよう」などの声かけ。これを皆さんに、ぜひ行っていただきたいのです。気象関係者や行政から発信された危機感のバトン、これを皆さんが周りの人に確実に受け渡し、災害からいのちを守ってください。

災害から命を守るのは他の誰でもなく、地域の力、一人一人の思いやりの心です。情報をうまく活用し、その心を伝えていただきたいと思います。